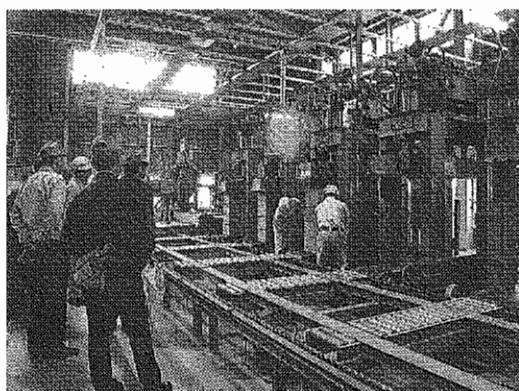


NJ 素流協 News

平成22年9月30日
第69号

平成22年9月30日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館9階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

平成二十二年度 第二回 国産材 利用拡大推進需給協議会を開催



協議会委員 株式会社カリヤ工場を見学する

長時間となるが、充実した協議会にして頂きたい」と挨拶した。

一、原木等の需給動向の現状と今後の見通し

ア、素流協の出荷実績と見通し

今年度八月までの合板工場への出荷実績のうち、ホクヨープライウッド向け累計出荷量は五万九〇〇〇m³となっている。一ヶ月当たり平均出荷量は一万一八〇〇m³で、昨年より一〇〇〇m³程度多く推移している。現在カラマツの納入量が不足している。

北日本プライウッド向けの出荷量は同じく三万九〇〇〇m³で、月平均は七八〇〇m³となっている。

カラマツが不足気味だが、納入量は一応まかなえている。同工場では最近アカマツを受け入れており、スギとのバランスをとりながら納入していくことになろう。

二工場向け累計出荷量は約九万

八〇〇〇m³で、このまま推移すると今年度累計は二三五〇〇〇m³となる見込みである。

イ、合板工場等の需要動向と見通し

「ホクヨープライウッド報告」

円高の影響もあり、最近輸入合板の入荷量が増加している。国内の合板生産は、輸入物の在庫状況や住宅着工戸数の推移から見て、横ばいから減産になりそうである。合板価格についても一二mm合板が八〇〇円前後で、今一つ盛り上がらない状況だ。

南洋材は八月の悪天候等で材が出てこない。九月は横ばいから強含みとなろう。ソロモン諸島では夏の国政選挙後、認証丸太や植林木の生産へシフトするとしており、流れが変わってくるようだ。

北洋材は日本向けに月二〇〇〇〜三〇〇〇m³入っているが、現在は端境期で低調。それでも円高の影響で、価格が北海道産材と逆転している状態である。米材も主体は中国向けだが、日本向けにも十分入ってこられる状況であり、国産とパツティン

今年度の第二回協議会が九月二八日開催された。今回は岩手県宮古市において会合を開き、併せて同市刈屋の株式会社カリヤで工場見学を行った。

開会にあたり下山協議会長は、

「通常は盛岡市開催が多い協議会だが、一年に一度くらいは現場でということ、今回はカリヤさんにお世話になることになった。委員の皆さんには遠路お越しのうえ

グすることが予想される。

【北日本プライウッド報告】

現在、業界では針葉樹の使用量を増やすチャンスとなっている。以前からあったラワン材の虫害問題が今年は特に広がっており、大手ハウスメーカーでは針葉樹合板へシフトしている。月間五〇〇万³mの合板需要のうち、現在国産と輸入物の割合が半々のところが、今後六一四、七一三と変わってくる可能性は十分にある。

【カリヤ報告】

スギ台板のフロア材を月当たり六〇³m生産しており、昨年度より三割増加している。大手住宅メーカーも国産エコ基材へのシフトを打ち出している。ただしスギを合板の表面に使うのは難しく、MDF（木質繊維板）との複合製法になつていくものと思う。

ウ、素材生産業者の生産動向と見通し

◇岩手県森連傘下組合は、決算までに数量を上げたいということもあり、フル稼働生産に入った。木材流通センターには新材を含め

取扱い材が増え、市況が活発になってきた。十組合の十ヶ月十二月の生産見込みは、委託・買取合せて三万六〇〇〇³mで、昨年比一三〇%の大幅増となっている。うち七〇〇〇³mは合板への出荷を希望、樹種比はスギ五四%、カラマツ四二%、アカマツ四%である。

◇岩手県国生連傘下組合は現在国有林請負生産に入っているが、今年は発注が早かったため、十二月からは手山を伐る時間ができそうである。目下立木の確保に努めている。

◇青森県森連、三八上北地域では、八月が猛暑、九月は雨で現場の状態が悪く進行率が悪い。一月頃までは国有林主体で、その後手山の生産に入る。

◇その他事業体も造林や国有林整備事業が一段落し、これから手山生産に入るところが多い。ただし天候の影響で、作業がはかどらない、思うように材を搬出できない、という報告が多い。

二、東北森林管理局からの情報
今年度の管内の生産計画量は五

八万³mだが、九月下旬現在の実績は二二万八〇〇〇³mで、全体的に生産が遅れている。このペースでは計画が達成できなくなるので、署の進行管理の問題なのか、生産事業体側の問題なのかを見極め、プッシュしていきたい。

【質疑応答から】

質問 組合員が合板工場へ出荷している素材について、民国の割合は分かるのか？

事務局回答 生産地については送り状に記入することになってい

るが、民有林か国有林か、入札素材かということは送り状ごとには調べていない。

質問 作業が遅れているという報告があるが、臨時雇用などで作業班を増やすことはできないのか。

委員（生産者）回答 プロの技術者は事業体に就いているし、熟練者でない臨時の作業員を入れると、かえって作業にブレーキがかかってしまう。技術者を育てたくても、緑の雇用で受入れた人などは、せっかく社費で資

格を取得させても仕事ができるようになったところで辞めてしまうことが多い。

委員（生産者）意見

人育てるには、生産が上がらない間は研修生の人件費補助等で穴埋めし、会社持ち出し分程度の仕事でできれば良しと考えてやっていくしかない。地元出身の人を育てれば他所へ移ってしまう心配も少なく、定着が期待できるかもしれない。いずれにせよ最低限、社会保険などの待遇を整え、魅力ある職場にすることが必要だ。以上のような報告と審議を午前中で終了、午後は(株)カリヤ工場へ移動し、協議会委員で同社取締役生産部長三上清氏の案内で各工程を見学した。

フロアメーカーである同社は、合板の製造に突き板の加工や塗装の工程が加わり、複雑なラインが組まれている。参加した委員は、実際の製品に手を触れながら三上生産部長の説明を聞き、フロア材製造ならではの工夫や苦勞を感じ取っていた。

一葉

樹木の病害虫(6)

鉄砲虫(土場編)

幹に穴を開ける虫を一般に鉄砲虫と呼んでいるが、同じ鉄砲虫にも、立木につくもの、生きた木につくもの、枯木か伐倒した木に寄生するものなど、など様々な種類がある。今回は、山土場や工場の貯木場の丸太につく種類について述べる。

積みである丸太から大量の鋸屑状の木屑が排出しているのが見受けられることがある(写真1)。排出孔は丸太の奥深くまで続いており、直径1cmにも達し、製材した製品は孔だらけで著しく価値が低下する(写真2)。

木を割ってみると、胴体の後ろを鋭で切ってしまったような変わった形の芋虫が出てくる(写真3)が、これが孔を空けた犯人で、オゾウムシの幼虫である。この虫の成虫は体長三〜四cm程もあり、象のように長い鼻(本当は口吻)を持ち(写真4)、体は人の指ではつぶれないほど硬い。

被害は、特にアカマツに多いが、

カラマツ、スギ、クリ、ナラなど多くの種類も被害を受ける。湿り気のある場所に多発し、沢筋の土場、椴積の下部あるいは内部に多く発生する。成虫が、樹皮の隙間に産卵することから、被害は皮付きの丸太にのみ発生し、皮むき丸太は被害を受けない。

丸太のほか、枯れ木、衰弱木にも寄生するが、地際近くに集中し、伐根に多量に寄生していることが多い(写真5)。

成虫は、春から夏にかけて被害部から羽化・脱出するが、その跡には直径1cmにも達する正円の孔が見られる(写真6)。羽化した成虫は夏の終わりまで順次産卵し、春の産卵では秋に成虫になり、夏に産卵されたものは翌年成虫になる。被害防止法として、薬剤散布、樹皮を剥ぐ、椴積の下に空間を作るなどがあるが、特殊な丸太以外ではいずれも実施が困難である。やはり、丸太を早期に製材することが基本である。



写真1 排出された木屑
鋸屑状で盛り上がる

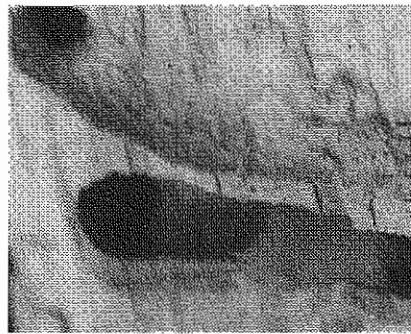


写真2 材の内部の様子
この中を自由に移動する

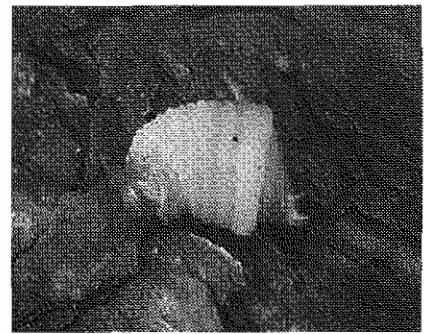


写真3 幼虫
半分に切られたような形

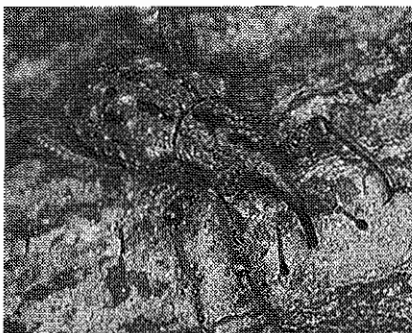


写真4 成虫(体長約3〜4cm)
鼻(口吻)が象のように長い



写真5 切り株への寄生
大量に排出された木屑



写真6 成虫の羽化・脱出孔
正円で直径1cmのもある

青森県チーム世界の大会で大舞台で健闘！

九月二十四日からクロアチアで開催された世界伐木チャンピオンシップ（WLC）に出場した日本チームは、三十一チーム中二十七位という成績で、初のチャレンジを終えました。上位入賞こそなりませんが、世界の林業人と交流し、大きなお土産を手に帰国しました。団体総合一位を獲得したのはオーストリアでした。

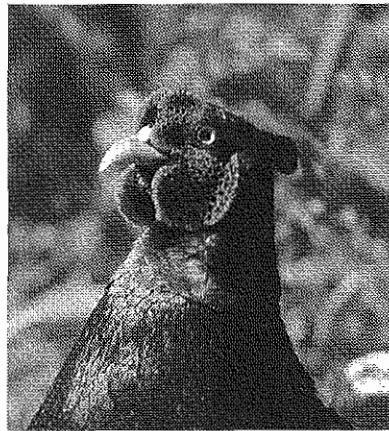
作業道散策

6

きじ(雉)

日本で最も美しい野鳥の一つであるが、繁殖期の雄の顔はかなり恐ろしい形相である。

岩手県のほか岡山県の県鳥に指定されており、初期の一万円札の裏面の図柄にもなっている。



滝沢森林公園にあるネイチャーセンターの餌場にも、時折地面に撒いた餌を食べに姿を見せる。単独の場合とカップルで現れる場合があるが、雛を連れて来たことがない。神経質で人影が見えろとすぐに立ち去るが、雌では土に半分埋まって動かないことがある。

ディスプレイの「ケン・ケン」という声と、反り返って激しく羽ばたく「ほろうち」は迫力があり、このためか、お伽噺の桃太郎では勇気のある家来として登場する。

一方、驚くと頭を低くして藪の中に頭を突っ込むので「頭かくして尻隠さず」のたとえにも使われる。「きじ蕎麦」の味は格別だが、「雉も鳴かずば撃たれまい」(目立

ない様にしていれば無事で済んだのに)、果ては「キジうち」(山男が藪の中で猟師が雉を狙う姿勢で



しゃがみこむ行為の隠語)など、様々に使われる。

キジと地震(滝沢村の言い伝え)

キジはとても親孝行な鳥なんだと。そして、両親のお墓は、海岸近くにあったそう。

地震になると、キジは親のお墓が津波で流されないか、心配で心配でたまらなかつたんだと。

地震が起きると、キジがけたたましく鳴くのは、そうゆう訳なんだとさ。

冗談欄 老婆社会の到来の危機

厚生労働省が、宮城県で男女約五万二〇〇〇人を対象に運動や健康状態、喫煙などと平均余命、医療費との関係を調査し、不摂生な人がどれだけ損をしているか発表した。

四〇歳のとき、高血圧の人は正常の人よりも一・七年余命が短く、医療費も三六万円多くかかるので損をしているとしている。

また、一日の歩行時間が一時間以下の人は、一時間以上の人に比べると一・五年短く、七五万円多くかかり、やはり損をしているとしている。

血糖値の高い人やコレステロールの高い人も同様のようだ。

ただ、煙草を吸う人は、吸わない人よりも三・七年も短命であるが、医療費は反対に少なくなっている。

この調査結果を受けて、早速、厚生労働省が喫煙者を増やす政策に転換することを検討しているようだ。

喫煙者が増えると、たばこ税の税収が増え、医療費の支出が減り、国や市町村は豊かになる。

しかも、たばこ生産農家やたばこ工場での労働者も増えて、地域経済が活発になる。

一挙両得どころか一挙三得、一挙四得である。

この考えのどこが間違っているのだろうか。

ただ、この調査結果は男性だけの傾向で、女性にはばらつきがあり、一定の傾向は見られなかったそう。この政策を推し進めると、益々老婆社会になりそうで怖くなる。

平成22年9月分の販売実績

- 1 合板用出荷量を前月と比較すると、スギが約1,020m³増加、カラマツが約1,780m³減少、アカマツが約670m³減少し、全体では約1,440m³減少している。昨年同月と比較すると、スギが約3,880m³増加、カラマツが約5,320m³減少、アカマツは約1,750m³増加し、全体では約370m³増加している。工場別ではホクヨープライウッドが前月比較で約1,440m³減少、昨年同月比較では約2,180m³減少、北日本プライウッドは前月比較では20m³増加、昨年同月比較では約1,760m³増加となっている。なお、これら合板用出荷量のうちシステム販売取扱量は前月より約840m³増加している。
- 2 その他（合板用以外）の出荷量は前月より約740m³増加、昨年同月より約810m³増加している。
- 3 今年度の年間計画量に対する6か月あたりの出荷量の割合（目標達成率）を50.0%とすると、今月の合板用出荷及び全体出荷実績は、計画数量を5.0～6.9ポイント上回る進捗状況となっている。
- 4 【訂正】前号に掲載した8月販売実績のうち、「その他販売先」の数値に誤りがありました（その他・スギ633→611、その他・アカマツ0→7）。お詫びして訂正いたします。

樹種	長級 (m)	販売先				計	今年度累計			
		合板用			その他		計	合板用	その他	計
		ホクヨー プライウ ッド(株)	北日本プ ライウ ッド(株)	その他						
スギ	2.0	2,913	3,307	609	6,830		40,301			
	4.0	2,110	1,716		3,826		21,419			
	計	5,023	5,023	609	10,656	1,486	61,720	49.3	10,325	72,045
カラマツ	2.0	3,482	1,538	179	5,199		35,206			
	4.0	1,337	763		2,100		16,986			
	計	4,819	2,301	179	7,299	16	52,192	41.7	1,432	53,625
アカマツ	2.0	1,423	337		1,759		9,901			
	4.0	155	28		182		1,257			
	計	1,578	364		1,942	27	11,158	8.9	35	11,193
その他針						57	34	0.0	152	186
広葉樹		58			58	77	174	0.1	245	419
合計		11,478	7,689	788	19,955	1,663	125,279	100.0	12,190	137,468
目標達成率(%)							56.9		40.6	55.0
計画量							220,000		30,000	250,000
バイオマス用針葉樹チップ材 (単位: トン)										169.3

長級2.0には2.1を含む、() はシステム販売取扱量(内数)

落穂拾い

いまは昔、五十有余年前に遡るが、筆者が高校生であった時期のことである。学習教科の「国語・古文」が苦手であった筆者が、ある学習参考書に出会った。それは、当時、東京教育大学（現筑波大学）助教授であった小西甚一先生の書かれた「古文研究法」である。この「古文研究法」は、通常の参考書に見られるような詰め込み式ではなく、学生に語りかけるような編集・体裁になつており、それは物語を通読していくうちに自然と知識が身に着くような按配であった。この参考書によつて古文の授業が楽しくなるとともに成績も著しく上がったのである。この本は、筆者にとつて宝物となつたのであるが、当時の古文・参考書としては大ベストセラーになり、その後も現在まで高校生の必読書となつていっているという。

さて前置きはこれくらいにして、最近筆者は、書店で故小西甚一先生の著作「古文の読解」という新刊文庫本を見つけたのである。この本はもともと昭和三七年（一九六二年）に発刊され、昭和五六年（一九八一年）に改訂版が出された後、久しく書店から消えていたが、先に述べたように平成二二年（二〇一〇年）二月に装いも新たに文庫本『古文の読解』として刊行され、短期間に版を重ねているようである。どうもその読まれ方が高校生の学習参考書としてではなく、筆者のようにかつて学生時代にお世話になつた小西甚一先生に対する懐かしみと古文の楽しさを再び味わいたいオールド・エイジ世代が読者のようである。

この本の「はしがき」において小西先生は、次のような文章を書いている。少し長くなるが引用しよう。

（よく「いまの学生は甘やかされていから、精神的にも肉体的にもモヤシみたいな連中が増えるのだ。もつと厳しく鍛えないと、日本の前途は危い」と力説する向きがある。賛成だ。厳しく鍛えなければ、これからの日本は、本当に心配だ。しかし、厳しく鍛えることは、よけいな知識を詰め込むのと同じではない。大学の教師は、専門学者である。そして、自分の専門しか知らないのが普通だ。そんな先生たちが、審議会の委員か何かになって、数学ではこれが必要だ、英語はせめてこの程度の知識をもたせるべきだ、物理学からこの分野を抜いたら日本は後進国になつてしまふ……などという強硬意見を出す。文部省がもしこれを押さえようとしてもすればジャーナリズムが「政治権力の学問への不当介入……」など嬉しがって書きたてるから賢明な役人がたはこれに逆らわない。その結果、一週間に四四時間分のカリキュラムを組んでも、なお消化できそうもないほどの内容がギューギュー詰めの教科課程として高校生に押し付けられる。）

この「はしがき」は一九八一年（昭和五六年）春に書かれていたのだが、三〇年前に小西甚一先生が指摘されていることは現在も少しも変わっていない。教育制度はかりでなく、わが国の国体万般にわたる制度疲労は極限に達しているとしが言いがたい。審議会制度も、役人たちの有様も、マスコミ・ジャーナリズムの独りよがりスタイルもちつとも変わっていない。嗚呼、南無阿弥陀仏。